



豪雪で見えてきた空き家の問題と、 タクシー会社閉業による移動支援の課題



今冬は昨冬の小雪とは打って変わって豪雪の年となりました。日々の除雪も大変だったのではないのでしょうか。そんな状況の中、町内では**空き家からの落雪が通学路を塞いでしまうなどの課題**が見えてきました。役場では個人の所有物に関与できないとのことで、結局住民の皆さんの手で雪下ろしをしていただく事態になりました。命にも関わることで、予算委員会の中でも質問をしましたが、今後早急な対策が求められます。町の答弁としては条例の見直しなども含め、対策を講じることですが、他の自治体の取り組みも参考にしながら、空き家の活用や、**危険空き家については早急に撤去するよう勧告を行うなど**スピード感を持って取り組んでいただくよう伝えました。

また、2月末に最上町唯一のタクシー会社が閉業した

ことに伴い、移動に不便を感じている方が増えていきます。今年度の町の新たな事業として「**地域交通リ・デザイン（※）**」事業が民間の協力を得ながら始まります。すでにデマンドバスの利用者の声を収集し、分析に入れるよう進めている部分もあり、早急の実証実験までつなげていくことが求められます。他自治体のタクシー会社の協力を得ながら、**ライドシェアという仕組み**を活用することを想定しています。一刻も早く移動の不便を解消できるよう、引き続き行政に訴えてまいります。**ぜひ、皆様のご意見もお聞かせ願えればと思います。**

陸羽東線につきましては、今年度の復旧は難しそうですが、国や県も動いておりますので、今しばらく代行バスでのご利用をお願いいたします。ダイヤや本数に関してご要望がありましたら山崎までお知らせください。

※リ・デザインは再構築するという意味です。

低所得世帯の3人に1人が
過去1年間に体験の機会がゼロの状態。
子どもたちが生き抜く力をはぐくむ支援を。

①「体験格差の解消につながる支援について」

日本経済が落ち込んでいる昨今、子ども達をはぐくむ教育の現場でも様々な格差が生まれつつあります。特に最近取り上げられているのが「体験の格差」です。体験といってもお金のかからない地域行事への参加なども含まれるのですが、それでも**低所得世帯の3人に1人が1年間体験の機会がゼロ**という全国調査の結果が出ました。

どんな経済状況であっても、夢を持つきっかけや挑戦できる環境を子どもたちに提供できる町であってほしいと思います。寄付を集め習い事への補助をしているNPO団体もありますので、情報を伝えたり、町内で体験できることをまとめて情報を発信するなどのサポートをお願いしたいと伝えました。また、部活動の送迎も困難な家庭もあることから、デマンドバスなどを活用した子どもたちの移動支援も視野に入れて地域交通のあり方を検討してもらえよう伝えてまいります。



12月定例会
一般質問

最上町にはたくさんの体験の機会があるが参加率は低い

②「最上中学校体育館への大型冷房設備設置」

現役の中学生から、中学校体育館への大型冷房設備設置の要望がありました。**猛暑日が増える夏場に体育館が利用できない**ケースもあり、部活動にも支障が出ています。また、**最上中体育館は町内最大の収容人数となる避難所**でもあり、冷房の設置は幅広い面から見ても必要と考えます。町としては豪雨災害の復旧を優先することから今年度予算への編成はありませんでしたが、できるだけ早く実現するよう訴えてまいります。

明るい活気のある最上町役場へ。
まちづくり組織としての意識と
やりがいを生み出すためには。

改善のための戦略的アプローチ



「役場職員のスキルアップと意識改革を」

残念ながら昨年度最上町役場職員による税金の着服事件が発生しました。2年前にも水道利用料の賦課漏れが発生するなど、住民の皆さまからの貴重な税金管理がずさんになっています。

町民の皆さまからも役場の雰囲気が暗いなどご意見をいただきますが、職員一人一人がやりがいを持ち、前線に立ってまちづくりを行っているという意識を持ってもらえるような組織づくりが求められます。

人口は減ってもデジタル化により効率的な財政運営は可能です。広い視野を持ち、先進事例は積極的に取り入れ、住民サービスの向上を目指してもらおうべく質問しました。

●この他に、「放課後こども教室の設置について」を質問しました。

本会議・予算委員会で私がした主な質問

- ・公共施設の省エネ対策と断熱の推進について
- ・除雪オペレータの待機料について
- ・職員の税金着服、なぜ被害届を出さなかったのか
- ・除雪機の購入補助を最上町でも実施できないか
- ・空き家の落雪と危険空き家の対策について
- ・インバウンド向けの冬場のアクティビティの実施
- ・町のホームページの今後の改善について
- ・ふるさと納税を活用した首都圏との連携
- ・单身・子育て世帯の住居不足問題に対しての進展は
- ・町外への流出を止めるための方策は
- ・新規就農者の予定は
- ・気候変動に対応した農作物の研究や推進の予定は
- ・屋内型遊戯施設の今後の設置予定は
- ・スキー場のサービス向上について

【編集後記】

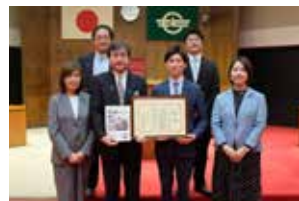
最近アパートがないことや交通の不便さから町外への転出が増えていることを実感しています。住居や移動に関する問題はすぐにでも解決すべきと考えています。

町民の皆さまのご意見がより良いまちづくりにつながりますので、不便を感じていることや困りごとなど、ぜひお気軽にご意見をお寄せください。

その他議員・個人活動

● 広報編集委員会

より町民の皆さまに寄り添った議会になるよう、広報編集委員として、様々な企画を提案しています。その成果も多少はあったのか、先日県の町村議会広報コンクールで初めてトップとなりました。引き続き、読みやすく、親しみやすい広報づくりを頑張りたいと思います。



● 議員有志で子育てカフェ開催

年明け2月4日（火）に、中央公民館みどりホールにて宮本浩議員、須貝康幸議員と共に、子育て世帯の悩みや意見を町政に反映する目的で「子育てカフェ」を開催し、3名の方に参加いただきました。

- ・居場所としてのフリースペースが欲しい
- ・子どもの夢をかなえる企画
- ・小児科が欲しい

などご意見をいただきました。今後も町内企業にも協力いただきながら多くの声を拾っていきたいと考えておりますので、子育てカフェ開催希望の方はお気軽にご相談ください。

